

株式会社赤ちゃん本舗が実施した「2023年赤ちゃんの命名・名前ランキング」によると、男の子の第一位は「陽翔（はると）」、女の子の第一位は「さくら」でした。メジャーリーグで活躍する大谷翔平選手の影響か、男の子は「翔」を使った名前が多く見られます。また、コロナ禍を経て人とのつながりを大切にしたいという親の気持ちの表れからか女の子には「紬（つむぎ）」や「結」という名前が増えているようです。昭和の戦時下では、男の子には「勇」や「勝」という名前が多く、戦後は平和を願う親の思いから、女の子には「和子」や「幸子」という名前が多かったようです。

このように、時代の様々な世相が名前に反映されていることがわかりますが、親が子供の幸せを願い名前をつけるという点は、いつの時代も変わらなと言えらるでしょう。名前の由来を知ることが、自分に込められた親の願いを知ることです。

親孝行とは「親を大切にし、真心をもって良く尽くすこと」です。親を旅行に連れて行ったり、好きなものをプレゼントしたりと、様々な親孝行の形があるでしょう。その中でも一番の親孝行は、自分の名前に込められた親の願いの通りに生きることではないでしょうか。

すでに両親が他界しており、名前の由来を聞けない場合もあるでしょう。また、神社や寺で命名してもらったため、名前に対する親の思いを聞き出せない場合もあるかもしれません。



## 名前の由来を知ることが 親の願いを知ること

倫理研究所の第二代理事長を務めた丸山竹秋は次のように述べています。

「大切なのは、あくまでも本人の自覚と努力である。自分の名前に対して親の愛情を思っ感謝し、名前の中に建設的な意義を見出だしてこれを自覚し、そのように努力すると、そこから自分の人生はそのとおりに切り開かれてくる。そこに親子の愛と敬とのつながりが、大きな力となって生きてくる」

（『丸山竹秋選集第一巻』）

名前の由来を直接聞けなくても、言葉の響きや字義から、「こういう願いが込められているのではなかるか」と想像することはできるはずだ。

筆者には三人の子供がおりますが、三人とも名前をつける時には、名前事典を読んだり、名字から続けて読んだ時の音の響きや画数などを考えたり、色々悩みました。実際に生まれた赤子の顔を見て、いくつか候補を挙げていた中から夫婦で話し合い、最終的に決めました。

子供の命名には大変な労力と時間を要しましたが、決して苦ではなく、むしろ子供の幸せな未来を想像する幸せな時間でした。その時、「自分の名前もこのように両親が色々悩みながらつけてくれたのかもしれない」と思い、我が子の命名によって親への感謝が深まったように思います。

名前をつけてくれた当時の両親に思いを馳せ、その願いに少しでも近づけるように、一日一日努力を重ねていきたいものです。